

## 2021 年度 個人研究実績・成果報告書

2022 年 4 月 25 日

所属	基盤教育機構	職名	専任講師	氏名	鷲谷 浩輔
研究課題	ラグビーのスクラム基本動作の言語化				
研究キーワード	ラグビー スクラム コー チング 質的研究	当年度計画に対す る達成度	3.概ね順調に研究が進展し、一定の成果を 達成したが、一部に遅れ等が発生した		
関連する SDGs項目	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし	

## 1. 研究成果の概要

主に本学グラウンドにて、本学ラグビー部員を被験者とし、スクラム動作の撮影及び分析を行ってきた。また、プロラグビーチームの NTT コミュニケーションズや日野自動車レッドドルフィンズの協力もあり、プロラグビー選手やプロコーチからの助言も多く頂くことができた。分析の際、研究協力者である NEC の森田氏や名古屋学院大学の河合氏らと連携しながら、多角的な視点で分析を行うことができています。また、今年度から正式に NTT のプロスクラムコーチである齋藤氏を招き入れ、NTT の研究開発センターの研究員ともタッグを組むことができた。今後は、NTT が開発した測定機器を用いながら、全国各地の高校、大学・社会人チームに対し調査を行い、スクラムの際に生じる音・衝撃・ベクトルを可視化しながら分析を進めていく。スクラムの言語化を研究として取り組んでいるのが、日本で唯一我々だけという特異性もあり、昨年度に引き続き、高校・大学・社会人ラグビーチームからの講演等の依頼も多く、zoom セッションにて多くのチームとビジョンを共有できている。しかし昨年以降、1~2月に予定していたニュージーランド（ワイカトチーフス：ハミルトン）への調査研究ができておらず、世界最先端の新たな知見を得ることができなかつた。研究の進行状況として、全国各地のラグビーチームにコーチングをして再度検証するという段階まで来ているが、新型コロナの影響もあり、予めスケジュールを組むことが難しい状況が続いている。実地調査が基本の研究のため、調査先の受け入れ態勢に左右されやすいという問題を抱えている。

## 2. 著書・論文・学会発表等（査読の有無及び海外研究機関等の研究者との国際共著論文がある場合は必ず記載）

## 【論文（査読あり）】

・「ラグビーにおけるタックラーのタックル後の体勢に着目した起き上がりの分析—タックラーのリロード向上に取り組んだチームに焦点を当てて—」神奈川県体育協会：体育研究 2021 年第 54 号

## 【著書・論文（査読なし）】

## 【学会発表等】

## 3. 主な経費

ユース（高校生）世代の調査により、全国トップレベルの高校へ出向いた際に旅費交通費がかかっているまた、動画分析及び打ち合わせ（オフライン）のために、名古屋学院大学へ出張している。オンラインでの打ち合わせや簡単な調査、分析については特に経費がかかっていない。また、8年前に自費購入した動画分析用のパソコンが故障してしまったため、新規でパソコンを購入するために個人研究費を翌年度に繰り上げている。

## 4. その他の特筆すべき事項（表彰、研究資金の受入状況等）

(本文は2ページ以内にまとめること)